

OnAir 3000 ユーザーレポート

横浜エフエム放送株式会社様

OnAir 3000-27F



Fm yokohama 84.7

CスタジオをOnAir 3000で更新



横浜エフエム放送株式会社
技術部
熊谷 拓哉

CスタジオにもOnAir 3000導入

弊社のスタジオは、生放送で使用しているA・Bスタジオ、収録で使用しているC・D・Eスタジオの計5スタジオとなっています。そのうちD・Eスタジオはアナブースが無い副調整室のみのワンマンDJスタジオとなっており、平成25年にOnAir 3000を導入・自社工事で更新しました。そして今回、CスタジオにもOnAir 3000を導入しました。

今まで

弊社は平成5年に竣工した横浜ランドマークタワーのテナントとして一番乗りで移転をしました。これまで23年間使用していた音声卓は、使い勝手・デザインともに優れておりましたが、残念ながら部品供給は絶たれ、故障があれば自



ら半田ゴテを持ち修理をしていた状況でした。その為、音声卓の更新は待ち焦がれていたものでもありました。

機器選定へ

近い将来、生放送スタジオのA・Bスタジオを更新する際には、このCスタジオで生放送をする予定であることから、メーカー・機種を選定には大変苦労しました。

アナログ卓に近い操作性とデジタル卓の長所を生かし、ディレクターでも操作することが可能で、エンジニアが操作すれば細かな設定に瞬時にアクセスできるというトータルバランスに最も優れた音声卓を検討しました。結果、OnAir 3000に決まり、今回の導入に至りました。もちろん信頼及び安定性についてはD・Eスタジオでも実証済みであるのと同時に、各パーツ、モジュールの互換性を考慮し、OnAir 3000は、弊社にとっては最も安心して導入できる機種でした。

OnAir 3000仕様

入出力構成はMic In 12ch・Analog Line In 24ch・Analog Line Out 40ch・AES 64ch I/O。フェーダー数は27フェーダー、その内24フェーダー分はロータリーモジュールとフェーダースクリーンモジュールをつけました。その為、大きな

音声卓になる事からロータリーアサインモジュールは、左右に設けて操作性を向上させました。アナログ卓のように「フェーダーを上げれば音が出る」事を基本とし、スナップショットを呼び出せば、初めての人でも操作可能な設定にすることができます。分かり易いインターフェイスで制作者からの基本的な部分に関する問い合わせは皆無と言っても良い状態となっております。

更新作業、その後

更新作業はスタジオ照明のLED化からスタートし、それと同時に自社で流用配線の確保と旧音声卓の分解・撤去を行いました。その後スチューダー・ジャパン・ブロードキャスト様、アイコニックの皆様に工事、設定をしていただきました。

弊社のスタジオ稼働率がとても高いため、短期間で作業していただきましたが、それでも丁寧で確実な作業をしていただき、とても感謝しております。工事期間中はスタジオから見える「みなとみらいの夜景」をご堪能いただけただのではないかと思います。ぜひ次の更新でもお力添えをいただきたいと思います。ありがとうございました。